

【2026 年 6 月期 1 Q 決算説明会 プレゼンテーションスクリプト】**説明者：IR 部長 鈴木 敏光****（1 Q 業績ハイライトの説明）****（決算説明資料：P 2）**

まず、ご説明に先立ちまして、開示資料における表現について、資料 2 ページをもとにご案内いたします。「トライアル」は、前期までのトライアルホールディングスの連結範囲と同一の範囲を指しております。そして「トライアル」と「西友」を足して、「M&A 関連費用」を差し引いたものを「トライアル HD 連結」と表記しておりますので、ご認識をお願いいたします。

（P 3）

3 ページと 4 ページに当第 1 四半期の業績ハイライトを掲載しております。当第 1 四半期は当社グループにとって、変革のスタートとなる重要な期間でございました。

2025 年 7 月 1 日付で株式会社西友を完全子会社化したことにより、企業規模が大幅に拡大し、新たな成長ステージへと舵を切りました。

当第 1 四半期における連結売上高は 3,266 億円、前期比 66.8% 増という大幅な増収を達成いたしました。店舗数につきましては、西友の 245 店舗が加わり、当第 1 四半期末の店舗数は 602 店舗となりました。

一方、西友の統合に伴う費用が発生しております。

当第 1 四半期からバランスシートに、のれん約 3,027 億円（当 1 Q におけるのれん償却後の残高）が計上され、販管費にその償却額約 38 億円が計上されております。

また、バランスシートには、M&A 時の借入金（ブリッジローン）3,674 億円を短期借入金として計上しており、それに対する支払利息約 9 億円が営業外費用に計上されております。

加えて、当第 1 四半期のみに発生する M&A 関連の一過性費用として、販管費にアドバイザリー費用等約 20 億円、営業外費用にブリッジローン組成に係るストラクチャリング手数料約 12 億円が計上されています。

（トライアルの業績）

（P10）

続きまして、流通小売事業について、トライアルと西友に分けてご説明します。

トライアルでは、売上高 2,152 億円、前期比 9.9%増と堅調に推移しました。計画通りに出店を進め、7 店舗を新規出店、1 店舗を閉鎖しており、前期末から 6 店舗増加しました。

既存店売上高は、当第 1 四半期は前期比 0.2%減となっておりますが、上期の既存店売上高の計画に対して、順調に進捗しております。

当第 1 四半期の注目ポイントの 1 つが、トライアルにおける利益面での大幅な成長です。

営業利益は 95.4 億円、前期比で 93.5%増という大幅増益となりました。この最大の要因は、売上総利益率の大幅な改善にあります。

（P24）

売上総利益率は、前第 1 四半期の 20.0%に対し、当第 1 四半期では 22.2%へと、2.2 ポイントの改善を実現しました。今回の増益を牽引している粗利改善の具体的な施策は、主に次の 3 点です。

1 点目は、データ活用によるプライシング施策の精緻化です。

プライシング施策の実行後に蓄積してきたデータを活用し、商品ごとの価格弾力性や、競合状況を分析し、商品単位できめ細かく価格のチューニングを進めております。

また、本部にプライスコントローラーを設置しました。エリアごとに競合他社と比較して適正な価格設定ができているか確認する体制を設けて、価格統制機能を強化しております。

2点目は、価格訴求・価値訴求施策の徹底と継続です。

地域一番価格を目指す商品を「エキサイティングプライス」としてお客様に強く訴求する仕組みを展開する一方、商品の価値が伝わるような棚割づくりやPOP、デジタルサイネージの活用を強化し、メリハリのある売場を実現しました。

3点目は、粗利率が高く、客数上昇のドライバーとなる惣菜やPB商品の強化です。これらの強化によって、惣菜の売上高構成比は、前第1四半期比で0.7ポイント伸長し、6.9%に、PB商品の売上高構成比は、前期末の18.4%から1.5ポイント伸長し、19.9%に達しております。

さらに、コストコントロールも奏功し、人件費は計画比を下回って着地いたしました。

以上の結果、営業利益率は前第1四半期の2.5%から、当第1四半期は4.4%へと大きく改善しております。

（西友における PMI の進捗）

（P3）

次に、7月1日に完全子会社化した西友のPMIの進捗についてご説明します。

西友の経営方針を、従来の「収益性重視」から「お客さま支持の向上」を軸とした経営に転換を進めております。まず足元で、お客さま起点の売場づくりを徹底した結果、既存店売上高は着実に改善傾向に向かっております。

(P11)

西友の既存店売上高について、11 ページにグラフでお示ししています。8 月は、トライアルと同様、前年同月に災害特需があった反動減で落ち込みがみられますが、9 月はより強い改善基調となりました。

第 2 四半期の話題となりますが、10 月には、トライアルと西友の合同感謝祭を開催して、お客様の来店を喚起するなど、西友の既存店売上高・客数はともに前年同月を上回って着地しており、着実に改善が進んでいます。

(P4)

当第 1 四半期においては、短期施策と第 2 四半期以降に向けた準備を並行して進めております。お客様起点の売場づくりの徹底ということで、短期施策の具体的な取り組みとして、まずは価格訴求の強化を進めております。これまで高止まりしていた商品価格の見直しとして、8 月より、西友全店で「STAND TOGETHER 生活応援 厳選 100」というキャンペーンを実施し、食品・日用品など 100 品目以上をお買い得価格で提供しております。

2 点目は、売場及び商品の強化です。

これまではお客様視点で見ると、店頭本来は並んでいるべき商品がないという状態が続いておりましたので、定番品の欠品解消に着手するなど、正常な売場に戻すために売場の整備を進めています。

また、8 月より、東京の西友 2 店舗（東陽町とひばりヶ丘）でトライアルの惣菜及び PB 商品を試験的に導入しました。トライアルの名物商品である「ロースかつ重」や「たっぷり玉子サンド」は売り切れてしまうほど人気を博しております。モデル店舗 2 店舗は、既存店全体と比較して、売上高・客数を大幅に伸長させています。10 月からはトライアル・西友両社の PB 商品の相互展開が本格化しており、グループシナジーの早期創出を進めております。

3点目は、企業文化の融合です。

トライアル出身の西友社長が西友社員に対して毎週メッセージを発信し続けていることに加え、トライアル側の経営陣が、西友の全従業員と面談を実施するなど、グループの一体感を高める取り組みを推進しております。

(P4)

第2四半期以降に向けた準備・実験も同時進行中です。

売場とプロモーション強化の取り組みとして、10月には、トライアル・西友合同感謝祭を開催いたしました。11月末のブラックフライデー、そして年末商戦に向けた準備も進行中です。

続きまして、TRIAL GOの出店です。11月7日に東京都内に2店舗オープンいたしました。また、12月上旬に、追加で東京に2店舗出店が決定しており、都心における小型フォーマットの可能性を開拓してまいります。

また、新フォーマット「トライアル西友」の出店準備も進んでおります。西友花小金井店を改装し、11月下旬に新たなフォーマットとしてオープンする予定です。トライアルと西友の強みを融合させた新しい店舗モデルを確立してまいります。

仕入原価削減につきましては、下期における効果の発現を目指し、現在、取引条件の見直しに向けた検討・準備を進めております。

最後に。来年2月に発表を予定しております中期経営計画につきましても、現在、グループシナジーの精査・分析を進めるとともに、具体的な施策の詳細な検討を進めております。

業績ハイライトは、以上となります。

続きまして、桐島より、今期の税負担の考え方、バランスシート、キャッシュフローについてご説明いたします。

説明者：上席執行役員 グループ経営財務部長 桐島 一寿

(税負担の考え方)

(P7)

当第1四半期における経常利益は32億4,700万円で、税前利益も同額となりましたが、最終的に四半期純利益は9億7,900万円のマイナスとなりました。

本来、当社の税負担率は、留保金課税などを考慮すると40%近くになります。そのため、税前利益32億4,700万円に対し、約60%にあたる19億円ほどが四半期純利益として残る計算になります。しかし実際には、四半期純利益は9億7,900万円のマイナスとなり、その差が約29億円となります。

この差異は、連結上でのみ発生するのれんの償却及びアドバイザリー費用が、当第1四半期において約60億円計上されたことによるものです。この約60億円の費用に対して、税負担率40%が適用されるとすれば、約24億円が法人税等として計上されることになります。

残りの5億円は、西友のグループ化による税効果会計の調整額（繰延税金資産の取り崩し）です。これらが四半期純利益の押し下げ要因となっております。

(バランスシート)

(P27)

最後に、バランスシートについて補足させていただきます。

西友の完全子会社化に係る資金調達として、短期借入金（ブリッジローン）3,674億円を計上しております。なお、本借入は当下期に、長期借入金への転換を予定しております。

また、無形固定資産にのれん暫定残高3,027億円を計上しております。こちらは、当第1四半期の、のれん償却額約38億円を差し引いた金額となっております。

総資産は、前期末から約2倍の約7,500億円となりました。内訳はトライアルの総資産3,000億円弱、西友の総資産2,000億円弱及びのれん約3,000億円となっております。

自己資本比率については、一時的に 16%まで低下いたしますが、早期に 20%への回復を目指しております。

(キャッシュフロー)

(P28)

最後にキャッシュフローについてです。

西友株式の取得及び、買収資金の調達で投資キャッシュフロー及び財務キャッシュフローともに見づらくなっておりますが、営業キャッシュフロー約 170 億円に対して、設備投資に関する投資キャッシュフローは 90 億円となっております。

説明は以上です。ご清聴ありがとうございました。

以上